

さいたま市長定例記者会見

令和3年8月5日（木曜日）

午後1時30分開会

○ 進 行 定刻となりましたので、市長定例記者会見を始めさせていただきます。  
それでは、記者クラブ幹事社、NHKさん、進行をよろしく申し上げます。

○ NHK 8月の幹事社を務めますNHKと申します。よろしく申し上げます。  
それでは、本日の記者会見の内容につきまして、市長からご説明をお願いします。

○ 市 長 皆さん、こんにちは。  
このところ命に関わる危険な暑さが続いています。熱中症の救急搬送者数は、7月の1か月間を見ても昨年の2倍以上の人数となっており、また連日、熱中症警戒アラートが発表されていることから、私も大変危惧しています。

新型コロナウイルス感染症の感染者が大幅に増加し、感染症対策の徹底をお願いしているところですが、マスクを着用している場合には、強い負荷の作業や運動は避け、こまめな水分補給をしていただく、また周囲の状況を見ながらマスクを外すなどの予防対策をお願いします。

それでは、本日の議題に入らせていただきます。

### 市長発表：議題1「本市の新型コロナウイルス感染症の状況について～今後の新型コロナウイルスワクチン接種事業～」

議題1「本市の新型コロナウイルス感染症の状況～今後のワクチン接種事業～」について説明します。

まず、最新の本市の感染状況については、8月3日時点で市内の検査で陽性が判明した方が累計で10,000名、うち調査中を含む感染経路不明者が5,019名、同日現在の陽性率は21.0%です。

先週1週間の新規陽性者数については1,145名で、前の週と比較いたしますと3倍以上となっています。

なお、本市において1週間の新規陽性者数が1,000件を超えるのは

初めてです。

また、直近の陽性率についても、陽性者数の増加に応じて10.5%から19.9%と大きく上昇しています。

次に、週別の新規陽性者数の推移についてですが、左上の本市の報道発表数を集計したカレンダーのとおり、今週に入りましても8月1日からの3日間ですでに588名の新規陽性者が確認されています。

推移のグラフの一番右にこの赤線で示されたとおり、今週の新規陽性者数は大きく増加することが見込まれるなど、非常に厳しい状況です。

次に、市内居住者の感染傾向について説明します。市内居住者の状況ですが、8月3日時点の「入院」「宿泊」「自宅」を合計した療養中の方は合計で1,694名となっており、1週間前の704名から2倍以上に増加しています。

感染経路が判明している方の経路の内訳について、直近4週間の状況を見ますと、家庭内感染が5割を超える高い状況となっており、次いで職場や会食の割合が高い状況です。

年代別の内訳については、直近4週間で2週間ずつに分けて比較しますと、60代以上の方を合計した割合が8.2%から5.1%と低下しています。

一方、10代、20代の割合が上昇する中、30代以下の割合の合計は6割を超える状況となっており、若年層を中心とした感染拡大が顕著となっています。

このように爆発的に感染者が増加している状況ですが、これまでの感染拡大期に整備してきた、保健所機能を感染状況に応じ迅速に強化する応援体制を基に、さらなる人員体制の強化を図り、急増している濃厚接触者の特定や検査を着実に実施していきます。

感染状況に関しては、これまでにない非常に強い危機感を持っています。改めて発出された緊急事態宣言を踏まえ、これ以上感染拡大はさせないという強い意思を持って感染防止対策を行っていきます。

続いて、本市のワクチンの接種状況についてです。左上の円グラフのとおり、12歳以上の接種対象者における8月5日午前8時40分時点での1回目ワクチン接種済みの割合については、30.5%です。

また、右上の円グラフの2回目接種済みの割合については22.6%です。

次に、65歳以上の接種希望者のワクチン接種状況についてですが、本市では重症化リスクの高い高齢者の7月末までの接種完了を目指してワクチン接種を進めてきました。

左の円グラフのとおり、高齢者の1回目の接種済みの割合は84.1%となっています。

右側の円グラフのとおり、2回目を接種済みの割合が70.2%であり、予定どおり7月末までの7割接種を達成したところです。

市が必要としているワクチン量が供給されない状況ですが、ワクチン供給状況を踏まえながら職域接種・大学接種等を含め、11月末までの接種完了に向けて、引き続き体制整備及び接種を進めてまいります。

次に、浦和競馬場第1駐車場の接種終了及び旧市民会館うらわ会場の開設についてです。

まず、浦和競馬場第1駐車場の接種終了についてですが、浦和競馬場第1駐車場でのワクチン接種については、本市が必要とするワクチン量が供給されないこと等の影響により、8月9日までの接種をもって終了とします。

また、ワクチン供給量の影響により、各医療機関での個別接種において、8月16日以降の接種分からこれまでの接種数の7割程度に抑えていただいているところです。

次に、旧市民会館うらわ会場の開設についてですが、現状のワクチン供給量を踏まえ、浦和エリアの新たな接種会場として旧市民会館うらわ会場を開設いたします。

予約枠は平日で1日180人、土日は1日252人として、毎週火曜日は接種を実施しません。

予約の公開については1週間ごととし、順次受付を開始します。

初めに、8月17日火曜日9時から、8月27日金曜日から9月2日木曜日接種分の予約を開始します。

次に、8月24日火曜日9時から、9月3日金曜日から9日木曜日までの接種分の予約を開始します。

最後に、8月31日火曜日9時から、9月10日金曜日から16日木曜日の接種分の予約を開始します。

なお、今後のワクチン供給量により予約枠を調整することがあるため変更になる場合があります。

また、受付時間については、接種対象者が若い世代に移ってくるために、仕事の後などの接種を考慮して、これまでより遅い時間に設定しました。

浦和エリアの接種会場としては、浦和競馬場第1駐車場での接種は終了となりますが、8月中旬に開設するロイヤルパインズホテル浦和での接種を経て、旧市民会館うらわでの接種へ繋いでいきます。

必要量のワクチン供給が見込めず厳しい状況ですが、11月末の接種完了に向けて、引き続きワクチン接種を進めていきますので、ご協力をお願いします。

7月30日に政府は埼玉県に対して、新型インフルエンザ等対策特別措置法に基づく3回目の緊急事態宣言を発出しましたが、先ほど説明しましたが、本市では7月下旬以降、連日のように大変多くの新規陽性者が確認されています。

急速な感染拡大の要因の一つであるデルタ株は、比較的若い世代でも重症化する可能性が高いことが指摘されており、厚生労働省のアドバイザリーボードは感染拡大が進む中、40代、50代で多くの重症者が出ていることを示しています。

急激な感染拡大によりこのまま入院患者の増加が続くと、一般医療への影響が増大し、助かる命も助からない状況が生じることを強く懸念しています。市民の皆様、特に若い方には、ご自分は「感染しない、感染しても重症化しない」ではなく、感染すればご自分の健康はもちろん、身近な方の命に関わる可能性があることを想像していただきたいと思います。

来週にはお盆休みを迎えます。帰省や旅行など、県境をまたぐ移動を極力控えていただくとともに、家族以外の方との会食など、リスクが高い行動を極力避けるなど、感染予防に取り組んでいただくようお願いします。

感染拡大防止には、お一人お一人が強く意識して感染予防策に取り組んでいただくことが最も大切です。ご自身や大切な方、身近な方の命と健康を守るため、自分のこととして基本的感染防止対策を徹底していただくこ

とをぜひともお願いします。

## 市長発表：議題2「大宮GCS推進戦略会議を設置します」

続いて、議題2「大宮GCS推進戦略会議の設置」について報告します。

平成30年7月に「大宮駅グランドセントラルステーション化構想」、本年3月に構想を具体的かつ実現可能なものとするための「大宮GCSプラン2020」を公表し、今後の大宮駅周辺街区のまちづくりの大きな方向性を示しました。

このたび、市長である私が今まで以上にリーダーシップを発揮しながら、各計画をスピード感を持って着実に推進するために、GCS構想全体及び大宮駅周辺を取り巻く様々な環境の変化への対応について、有識者からの意見を求めることを目的に「大宮GCS推進戦略会議」を設置することとしました。

推進戦略会議に期待することは大きく2つです。1つ目は、GCS構想全体調整への意見をいただくことです。プラン2020を踏まえ、今後は民間まちづくりや駅前広場などの個別整備計画を熟度に応じて順次推進していくこととなりますが、各計画がバラバラに進んでしまわないよう、トータルで具体的なグランドデザインに基づいて全体をマネジメントする必要があります。

そこで、エネルギーや景観などの側面から、全体をマネジメントしながらGCS構想を推進するために必要な視点について、大所高所の立場からご意見をいただきます。

2つ目は、ウィズコロナ及びポストコロナ時代の大宮のまちづくりへのご意見をいただくことです。新型コロナウイルスの感染症拡大はいまだ収束していませんが、徐々に定着しつつある「新しい生活様式」を踏まえた都市環境を提供していくことが求められています。個々の建物単位での対応と異なり、都市の中心部で面的な対応を行うことは簡単ではありません。駅周辺を再構築する大宮にとっては、国内・世界のモデルとなるチャンスであり、この機にウィズコロナ及びポストコロナ時代にふさわしい都市環境の創出についてご意見をいただきたいと考えています。

私は、GCS構想を推進する中で、ウィズコロナ及びポストコロナ時代

に求められる大宮駅周辺のまちづくりについて、次の6つの視点が極めて重要だと考えています。

1つ目は、居心地が良く歩きたくなるウォークアブルな街の実現に向けた歩行者中心の賑わいのある空間づくり。多くの市民が利用でき、緑あふれ、お祭りやイベントなどができる大きな広場ができればと考えています。

2つ目は、大宮駅は東日本の玄関口であることから、駅前地区では本市の顔となる、景観にも配慮したランドマークの創造です。

3つ目は、首都圏直下地震や激甚化する自然災害から市民を守るため、緑や広場整備、エネルギーの確保など、災害に強いまちづくりの実現です。

4つ目は、2050年の二酸化炭素排出実質ゼロ都市に向けて、カーボンニュートラルなまちづくりの実践です。

5つ目は、デジタルトランスフォーメーションを推進し、MaaSに代表されるデジタルで支える新たな市民生活のモデル都市スマートシティの実現です。

6つ目は、鉄道によって東日本と結ばれる大宮のポテンシャルを最大限に活用し、商都大宮の発展的再構築や企業誘致、新たな機能導入によるさらなる東日本の対流拠点としてのポテンシャルの向上です。

推進戦略会議では、私が選んだ各分野の有識者の皆様から、これらの視点について意見を聴取したいと考えています。

ここで、大宮GCS推進戦略会議のメンバーをご紹介します。

まずは、さいたま商工会議所会頭で、公益財団法人埼玉りそな産業経済振興財団理事長の池田一義さんです。東日本の対流拠点を形成していく上では、地域の経済団体との連携が大変重要です。

次に、交通の専門家で、令和元年6月に立ち上げた「新たなモビリティサービスによる「まち」づくり協議会」でアドバイザーをお願いしている筑波大学名誉教授の石田東生さんです。石田教授は、日本大学理工学部の客員教授でもあり、国の社会資本整備審議会の基本政策懇談会の座長も務めているほか、国や地方の審議会・委員会等に数多く関わられています。

次に、都市計画の専門家で、GCS構想及びGCSプランの取りまとめにご尽力いただいた一般財団法人計量計画研究所代表理事の岸井隆幸さんです。岸井代表理事は、日本大学理工学部の特任教授でもあり、日本都市

計画学会の元会長です。渋谷や横浜をはじめ、全国の大規模ターミナルのまちづくりにも数多く携わっている方です。

次に、経営の専門家で、本市のしあわせ倍増・行革推進プラン市民評価委員会でご尽力いただきました株式会社経営共創基盤パートナーマネージングディレクターの田矢徹司さんです。東日本の対流拠点として必要な都市機能や企業誘致など、事業推進を見据えたご意見をいただきたいと考えています。

次に、国土交通省関東地方整備局副局長時代に首都圏広域地方計画において、大宮を東日本の対流拠点として位置づけることにご尽力をいただいた元国土政策局長の首都圏高速道路株式会社代表取締役専務執行役員の藤井健さんです。GCSに関連して、平成29年に開催しました首都圏対流拠点シンポジウムでご講演いただいています。

次に、国の審議会等でご活躍されています都市計画の専門家で、低炭素型都市づくりに造詣の深い千葉大学教授の村木美貴さんです。村木教授は、国土交通省の「デジタル化の急速な進展やニューノーマルに対応した都市政策のあり方検討会」のメンバーでもあるほか、国や地方の審議会・委員会等で数多く関わられています。

次に、長年にわたり大宮駅周辺のまちづくりにご尽力をいただいている建築・都市開発プロデューサーの山田幸夫さんです。山田さんは、赤坂サカスや霞が関コモンゲート、さいたま新都心の県立小児医療センターなどの開発プロジェクトに携わられています。山田さんには、今後GCS全体のまちづくりに対してアドバイスをいただけるような役割を担っていただきたいと考えています。

最後に、造園の専門家で、全国各地のランドスケープ計画・デザインを数多く手がけ、メディアにも頻繁に出演されている東京都市大学特別教授の涌井雅之さんです。GCSに関連して、平成30年に開催いたしました第2回首都圏対流拠点シンポジウムでご講演いただいています。現在、さいたま市公募対象公園施設設置等予定者選定委員会の委員長もお願いしています。

各分野を代表する8名の学識者・民間企業の方々にご参画いただくとともに、私がこの会の座長を務め、GCS推進に向けたリーダーシップを取

ってまいります。

第1回の大宮GCS推進戦略会議は、9月22日に東日本連携センターで開催します。昨今のご時勢から一般の傍聴者はいれず、オンラインによる配信を予定しています。

オンラインでの視聴方法や報道関係者の受付方法の詳細については、追ってご案内させていただきます。

### 市長発表：議題3 「「マチミチコンペ in 大宮ウォーカブルシティ」で提案募集します」

続いて、議題3 「マチミチコンペ in 大宮ウォーカブルシティ」について説明します。

近年、国土交通省では、ウォーカブルなまちづくりの取組を推進しています。「ウォーカブルなまち」とは、居心地が良くなる歩きたくなるまちなかを形成することによって、イノベーションの創出や人中心の豊かな生活を実現できる都市を構築できるという考え方であり、本市もウォーカブルなまちづくりを推進しています。

これまでの大宮駅周辺の取組を紹介します。まず、都市計画道路として用地買収した土地を一時的に道路占用し、賑わい創出を図る社会実験を実施しています。

また、大宮中央通線では、統一されたデザインの植栽等を配置することで沿道の緑化を図り、居心地がよい空間づくりを行っています。

また、氷川参道では歩行者専用化を行うほか、そのほかにもいくつかの路線で道路空間の美装化等にも取り組んでいます。

このように、大宮駅周辺ではハード・ソフト両面でウォーカブルなまちづくりに取り組んでいます。

こうした取組をより一層推進するために、「(仮称) 大宮駅周辺ウォーカブル推進戦略」を策定します。

推進戦略の内容としては、「ウォーカブルなまちづくりを進めていくための基本的な考え方」、「取組の柱となる方針」、「柱を具体化するためのモデルプロジェクト及び実践プロジェクト」で構成する予定です。今回のコンペでは、このモデルプロジェクトと実践プロジェクトとなる事業についてアイデアを募集する予定です。

また、今後のスケジュールとしては、今年度、コンペで提案をいただいた内容を踏まえて、推進戦略案を作成します。そして、次年度、提案内容に関する調査・研究を行った上で、推進戦略を作成する予定です。

次に、コンペの概要について説明します。

コンペのテーマは、大宮の歴史・文化等の「大宮らしさ」を活かした人中心で居心地が良く、歩きたくなる「ウォーカブル」なまちづくりです。提案は2つの部門を募集します。

1つ目は、モデルプロジェクト部門です。ここでは、中長期的に実現を目指すプロジェクトをイメージしています。自由な発想でのアイデアを募集します。

賞金は、最優秀賞で50万円、優秀賞で25万円、入賞5万円です。この部門の優秀賞等は、推進戦略の「モデルプロジェクト」へ位置づける予定です。

2つ目はプレイヤー部門です。短期的に着手することのできる実践型のプロジェクトをイメージしています。提案者が実際のプレイヤーとなることを前提としています。

賞金は5万円に加え、会場投票で選ばれた1作品には、特別賞として10万円の賞金を授与します。この部門の優秀賞等は、推進戦略の「実践プロジェクト」へ位置づける予定です。

検討対象区域は、大宮駅周辺の約130ヘクタールの区域を対象としています。これは、都市再生緊急整備地域のエリアと同一の区域です。また、昨年度に策定した都市再生整備計画において、「まちなかウォーカブル区域」として位置づけているエリアでもあります。

一方で、このエリアに固執せず、さいたま新都心や周辺の地域資源の連携など、区域外へ波及するような提案もぜひいただきたいと考えています。

審査員は、こちらの皆さんにお願いいたします。委員長は、株式会社オープンエーの馬場正尊さんです。馬場さんは、これまで全国の公共施設のリノベーションを手がけてきておりまして、最近では南池袋公園の再生や沼津市の泊まれる公園、インザパークなどが代表的な取組です。また、国土交通省がウォーカブルという取組を推進するきっかけとなった「都市の多様性とイノベーションの創出に関する懇談会」の委員も務めています。

さらに大宮では、公共施設再編、特に旧大宮図書館施設活用事業においてご助言やご講演をいただくなど、大宮のこともよくご存じの方です。

続いて、埼玉大学の小嶋文さんです。小嶋さんは、交通計画を専門としており、人中心の道路について研究をされている実績がございます。また、国交省のストリートデザイン懇談会の委員を務めています。本市においても様々な機会でご助言をいただくなど、本市のことを熟知している専門家でもあります。

続いて、さいたま商工会議所の川村郁夫さんです。ウォークアブル戦略は、地元の商業から見た視点も大変重要です。その視点から、さいたま商工会議所より川村さんをご推薦いただきました。

続いて、株式会社グランドレベルの田中元子さんです。田中さんは、「1階づくりはまちづくり」を合言葉に、各地で実践的な取組を行っている視点からお願いしています。また、「グランドレベル」という言葉を日本で使い始めた先駆者でもあります。

続いて、国土交通省関東地方整備局の今佐和子さんです。今さんは、国交省における「ウォークアブル」の仕掛け人とも言える方でして、「道路空間活用勉強会」を有志で立ち上げ、「活用する道路」について日夜研究されている方です。

そして最後に、本市からは小川副市長が委員を務めます。

スケジュールとしては、本日8月5日より募集を開始します。提案の受付は12月24日までです。1次審査を1月中旬に行い、2次審査は公開プレゼンテーション審査として、来年2月19日に行う予定です。また、2次審査の同日に表彰式を行います。

最後に、本コンペのねらいについてお話しします。大宮駅周辺ウォークアブル推進戦略の作成にあたっては、行政主導的な検討ではなく、行政では発想できない斬新なアイデアを盛り込んでいくことで、公民連携による活発で持続する活動が行われていくことを期待し、今回コンペを行うこととしました。

これまでにないようなワクワクするような新しいプロジェクトのアイデアに期待をしています。たくさんのご応募をお待ちしています。

私からは以上です。

幹事社質問：新型コロナウイルス感染症に関して  
①感染拡大の要因とオリンピック開催の影響について  
②新たな対策や市民への呼びかけについて

○ NHK

ありがとうございました。

市長からのご説明について質問をさせていただくところですが、幹事社質問が市長説明に関連するところですので、幹事社質問を先にさせていただきます。

まず、1点目です。新型コロナウイルスの感染者が増加しています。さいたま市の感染拡大の要因をどのようにお考えでしょうか。また、オリンピックの開催が感染者の増加に影響したのかどうか、市長のお考えをお聞かせください。

2点目です。感染者の増加を抑えるために、新たにどのような対策や市民への呼びかけを行っていくお考えなのかお聞かせください。

○ 市 長

それでは、幹事社にお答えします。

まず、本市における感染状況の推移を振り返りますと、4月20日にまん延防止等重点措置が適用され、人流が減少したことなどにより、第4波における感染の拡大は5月上旬以降減少に転じました。

しかしながら、国の専門家会議における資料を見ますと、本市の繁華街における夜間滞留人口は5月中旬から増加に転じており、この傾向は現在まで継続していることから、この人流の増加や本市と関係の深い都内での感染者の急増等が第5波の感染拡大に大きく影響していると考えています。

加えて、今般の感染拡大が急速に進んだ原因については、埼玉県内において感染力の高いデルタ株への置き換わりが進んでいることも、爆発的な感染拡大につながったと考えています。

次に、オリンピックの開催による感染増加への影響についてですが、オリンピックの準備期間を含め、関係者などの一定の人の流れが起きていることは事実としてございます。

しかしながら、本市における人流の増加は、先ほどご説明したとおり、既に5月中旬から始まっていること、また本市におけるオリンピック競技は無観客で開催されていることから、大きな影響はないものと考えています。

続いて、2つ目の質問にお答えします。感染拡大の抑制として効果が高い対策は、現状、ワクチン接種と市民や事業者の皆様お一人お一人が日々行っている基本的な感染防止対策の継続であると考えています。

また、人流の増加が感染拡大に大きく影響を与えていると考えられることから、不要不急の外出・移動の自粛、特に県境をまたぐ移動は極力控えていただきたいと思います。また、お盆の時期も近づいていますが、帰省も今年については可能な限り自粛していただきたいと考えています。

また、現在進めているワクチン接種については、高齢者の世代の感染割合が大きく低下していることから効果が高いと考えています。接種対象者も現役世代に移ってきており、希望される方がスムーズに接種ができるよう、受付時間帯を含めた集団接種会場の見直しを進めることでワクチン接種を着実に実施してまいります。

また、市民や事業者の皆様に向けた感染予防の普及啓発については、これまでもチラシや市報などの紙媒体によるもののほか、防災行政無線、各区の広報車、消防団による周知や啓発、またはウェブなど、あらゆる媒体を活用して発信してきました。

今までの普及啓発活動に加えまして、現在の新規陽性者の中心は50歳代以下の世代が中心となっていることから、これらの世代により情報が届きやすいSNSなど、ウェブを活用した普及啓発の強化してまいります。

私からは以上です。

## 議題・幹事社質問に関する質問

○ NHK

ありがとうございました。

それでは、幹事社から何点かご質問させていただきます。

現在の感染者の増加の対応についてなのですが、やはり急激な増加が続いているということで、これまでと似たような対策では、なかなか急増を抑えられないのではないかとというふうな声も出ているところであります。今、若い世代にSNSでの呼びかけというお話もありましたけれども、新たな一手を打っていかないといけないのではと思うのですが、その辺りの市長の今後のお考えをお聞かせいただけますでしょうか。

○ 市長

緊急事態宣言が発出されましたので、それを受けて県から、お酒を出すことを自粛していただくなど、最大限の取組をやっていただいていると思

います。

それをより実効性が高められる取組ということで、よりきめ細やかに呼びかけを行っていくつもりです。最終的には一人一人、また事業者の皆さんそれぞれにご理解いただいて、これまでも本当に長期間にわたってご協力をいただいて、大変な思いをさせてきているわけですが、今この局面が最も大切で、ワクチンの接種も徐々に進んできていますので、これをやはり何としても乗り越えていくということが重要だと思います。引き続ききめ細やかな呼びかけを行っていく中で、少しでも人流を防ぎ、不急の外出自粛にご協力いただく、基本的な感染防止対策を一人一人に行っていたくということをしっかり呼びかけていきたいと考えています。

○ NHK           今、事業者の方にも長期間にわたって大変な思いをしていただいているということなのですが、市独自の何か事業者への支援、そういったものの検討状況はいかがでしょうか。

○ 市 長           ワクチンが一定程度打ててくると、少しいろいろな日常生活が始まってくると思います。まず、(新型コロナウイルスの感染拡大)をしっかりと抑えて、その後、速やかに景気回復であったり、あるいはこれまで様々な我慢をしていただいた皆さんにしっかり対応できるように、9月議会に向けて検討しているところです。

○ NHK           あともう一点、オリンピックについてなのですが、オリンピックの開催が感染者の増加には影響しないのではないかというご意見だったのですが、間接的には影響しているのではないかという意見もありました。やっぱりいろんな矛盾感というものがあったというご意見があるのですが、その辺りの市長のお考えをお聞かせください。

○ 市 長           直接的な意味では、先ほど申し上げましたとおり、現時点では大きな影響はないと考えていますが、ただ間接的ということになると、さいたま市はやはり都内に通っている方がたくさんいて、都内で感染した方も多くいます。まだお酒の機会が必ずしも十分に抑制されていないという状況がある中で、そのことが、オリンピックなどがそういったことにつながっていくという側面もないわけではないと思います。ただもう一方で、家庭でご家族とオリンピックを見てほしいということも訴えている中で、視聴率などを見るとかなりの皆さんがご家庭で見いただいているという事実もあ

るので、間接的な影響が、そういったプラス面とマイナス面と両方あると  
考えています。

- NHK            ありがとうございました。  
                  それでは、各社さん質問がありましたらお願いいたします。
- 埼玉新聞        埼玉新聞です。  
                  今の点ですけれども、いろんなイベントが中止する中で五輪が開催され  
                  ているという矛盾点について、どう思われるかというところを教えてほし  
                  いのですけれども。
- 市 長            現時点でもイベントについては全面的に中止になっているわけではなく  
                  て、一定の制限の下にという状況になっていると理解しています。その中  
                  でオリンピックについては、無観客という形で行っています。一般的にや  
                  られているイベントが全て中止に規制されているわけではありませんので、  
                  そういった意味では全く影響がないかどうかということは別としても、違  
                  いはないのだろうと思います。
- 埼玉新聞        でも、タウンミーティングも延期するのですよね。タウンミーティング  
                  を延期してクリテリウムも中止するけれども、東京五輪は開催されていて、  
                  一般の方はこういう大イベントが開催されているんだから、気持ちが緩んで  
                  もおかしくないと思うんですけれども、その点の矛盾をどう思われますか。
- 市 長            それぞれ個々のイベントを実施するかしないかという判断は、それぞれ  
                  主催者側の判断になるのだろうと思います。その中で、現在国の出されて  
                  いる緊急事態宣言下、あるいはまん延防止等重点措置の制限下で特に抵触  
                  する形ではないと思っています。ただ、やはりオリンピックというのは他  
                  のイベントと比べると、国民への影響力が大きいイベントですので、間接  
                  的な高揚感であったり、人流が起りやすくなるという状況は、全く否定  
                  することはできないと思います。
- 埼玉新聞        あと、自粛疲れと宣言慣れが言われていますけれども、その中でいろん  
                  な呼びかけされるということなんですけれども、その辺をどう工夫されま  
                  すか。
- 市 長            これは、非常に難しいところでして、高齢者の皆さんについてはかなり  
                  ワクチンを接種していただいて、結果として高齢者の感染者、あるいは重  
                  症者は減ってきているわけですが、今特に増えている20代、30代、あ

るいはそれ以下の方々にどういうふうに関心するようにお話をしていくかということがすごく重要だと思っています。そういう意味では、先ほども申し上げましたが、SNSなどを活用したりして、何をやれば確実に届くかということについては、必ずしも結論が見えているわけではありませんが、若い世代の皆さんにより届くように工夫をしながら発信していきたいと考えています。

- 毎日新聞      大宮GCSの今回の戦略会議のメンバーに鉄道事業者が入っていないのは、個別のところだったり、あるいはこれまでの話合いなどで既に入っているから、今回の戦略会議にはいないということなののでしょうか。
- 市長          今回の推進戦略会議については、先ほども説明しましたが、大宮駅並びに大宮駅周辺のまちづくりを大所高所からどういうものにしていくべきなのかということそれぞれの専門家から方向性をしっかり提案していただくというのが主な趣旨です。ですので、鉄道事業者とか、あるいは地権者の皆さんというのは、その下の調整会議でさらにご意見を集約していくという場も設定していますので、鉄道事業者の皆さんには、そういった場でまたご意見を頂戴することになると思います。
- 毎日新聞      先週会見のあった浦和のまちづくりの会議で、先週のものではなくて過去の数年前とか10年ぐらい前の報告が出て、ただ実際何かそれをつくったりとか変わったりということは特になかったようではございますけれども、今回の戦略会議も、それによって何か具体的にこれができるということではない位置づけという理解でいいのでしょうか。
- 市長          先ほど6つの視点を申し上げました。「大宮GCSプラン2020」を発表させていただきましたけれども、さらにそういった視点も肉づけをしながら、この計画を精査して、より詳細な計画に移行していかなければなりません。より詳細な計画をつくる上で、今回の推進会議の皆さんにそれぞれの専門的な知見から方向性、あるいは具体的な提案をお示しいただいて、それらを調整会議の中で取り込んで、いま個別の計画づくりをしていますので、そこに反映させていくことになると思っています。
- 毎日新聞      それから、GCSに関してもう一点、県内でもJRの支社長の会議が年に数回あるのですけれども、そういうところや鉄道事業者の反応を見ると、GCSで具体的に何か大宮駅や鉄道事業者が具体的にすぐしそうな反応が

返ってこないのですけれども、市長としては例えば何年後ぐらいまでにどういった成果を得たいという目標を持っているのでしょうか。

○ 市長 特に駅前広場や駅の東口の周辺については、個別の地区でもいろいろな計画づくりが行われています。3年後の都市計画決定を目指して準備を進めています。

○ NHK そのほか議題に関してのご質問ありますでしょうか。

○ 東京新聞 東京新聞です。

コロナのワクチン接種の会場の件でお伺いしたいんですが、これはワクチンが少なくなったからということで、いろいろ事情はあるそうですが、浦和競馬場はもし仮にワクチンがすごく供給量が増えたとしてももうやらない、もうこれで本当に終了にしてしまうのかということと、あと市長は再三、特設会場はもう一個つくりたいということをおっしゃっていましたが、この状況でその検討というのはもう頓挫してしまっているという状況なのか、また増えてくれば考えるのか、その辺りの考え方を教えてください。

○ 市長 浦和競馬場については、ワクチンが減少しているということがメインの理由ですが、今後競馬の開催の状況もありますので、今回で一応中止ということになります。そして、3つ目の会場についてはまだ検討しているところでして、今より(ワクチン供給が) 増える形が見えてこない、残念ながら実施はできませんけれども、一日も早くこのワクチン接種を行って、市民の皆さんに打っていただきたいという思いが強いです。引き続き、ワクチンが十分に確保できれば取り組めるような状況はしっかりつくっていかうと考えています。

○ 東京新聞 では、増えたらという条件付ではありますが、特設会場は2会場は設けたいというのが一応希望ではあるということですか。

○ 市長 現状としては、桜木駐車場と、これから浦和競馬場を一旦閉めますけれども、これからロイヤルパインズホテルが一時的にあって、それから旧市民会館うらが設置されます。それから、第3の会場については、今候補としては複数ありますが、ワクチンの供給量によって会場の広さ等の要件が変わってくると思いますので、それに対応して選んで、ワクチンの供給量が確保できれば進めていくことを検討しています。

○日本経済新聞 新型コロナに関してお伺いさせていただければと思います。

自宅療養者の考え方についてなのですが、政府が基本的には基礎疾患のある方とかリスクのある方を除いて原則自宅療養するという方針になったかと思うのですが、それに対して市長はどういうふうに考えていらっしゃるのかというのと、それに関連して現状自宅療養者への支援が市としてはどういうふうな支援や対応をしているのか、あと今増えている状況を踏まえて今後検討している取組がありましたら教えてください。お願いします。

○市長 まず、政府の「基本的には自宅療養で」という方針についてですが、最終的にどういった通知が出てくるか分かりませんが、病院での治療が必要な方々には必要な措置が取られる、要するに入院ができるという環境があることが基本だと考えています。それから、現状についてですが、陽性者のうち軽症または無症状で自宅療養を行う方については、埼玉県で「埼玉県宿泊・自宅療養者支援センター」に順次依頼して健康観察業務を行っていただいています。そのうち、軽症ではありますが、基礎疾患等のリスク要因のある方については、センターと調整の上、埼玉県が委託する診療・検査医療機関等によって健康観察や、必要に応じた電話診察等が行われています。また、重症及び中等症で入院調整中の方及び近日中にホテル療養調整中の方については、それまでの間、さいたま市保健所におきまして健康観察を行って対応しています。

埼玉県が宿泊・自宅療養者支援センターを設置して健康観察を行っていただいていますので、そこを今後調整をしながらしっかりと対応していきたいと考えていますが、特に保健所としては、基本的には疫学調査をしっかりと進めていくことになると思います。ただ、健康観察や入院調整中の方がかなりいますので、その部分も私たちとしてはしっかりとサポートしていくことが重要だと思っていますので、センターと連携しながら、しっかりとこれらの状況を見守り対応していきたいと考えています。

○日本経済新聞 自宅療養の方が8月3日時点で1,000人を超えている状態だと思うのですが、そういう方々はかなり不安な気持ちで療養されているかと思うのですが、そういう方々への何か支援だったりとか、もっとここは強化していきたいとか、何か今市長の中で考えられているものが

あれば教えていただければと思います。

- 市長 自宅療養の方にもパルスオキシメーターを全員に配布させていただいて、その状況についての把握は一定程度できているところですが、おそらく今後さらにこの自宅療養者が増えてくるのが想定をされますので、私たちとしては、その自宅療養されている方々の状況をセンターと連携して、急変したときにしっかり入院できる状況、あるいはそういったことを把握できる状況をつくっておかなければいけないと考えています。そのためには、今ハーススだとかいろんなもので状況を見てもらうようにはしていますが、これは数が多くなってきたときにもしっかり対応ができる体制なのかどうかについて、保健所に指示を出して、それらにも対応できるような状況をつくるために何をすべきなのかということについては、今検討させています。

パルスオキシメーターの数値というのは大きな基準になりますし、もちろんその数値だけではなくて、いろんな状況を把握しておくということも必要になります。ここで特に調整中の段階で病状に急変が起こるといったようなことがあってはならないと思いますし、その場合にはすぐに入院ができるような対応ができなくてはいけないと思っていますので、今後より一層注意深く対応していかなくてはいけないと考えています。

- 日本経済新聞 念のため確認なんですけれども、現状はそういう方が、自宅療養の方であったりとか、入院やホテル療養を希望されている方への対応は、現状は今ではできているという判断でよろしいのでしょうか。

- 事務局 大変厳しい状況にはありますが、入院調整については、ちょっと時間はかかっていますが、できているところです。

以上です。

- 日本経済新聞 ちなみに今のちょっと時間はというのは、大体どれぐらいを目安というふうに考えればいいのでしょうか。

- 事務局 翌日ぐらいには対応ができているということです。

- 埼玉新聞 ワクチンで、菅総理が8月末に国民4割と言っていますけれども、さいたま市の現状で受け止めをお願いします。

- 市長 私たちとしては、あるワクチンでとにかく全力を尽くさなければいけないと考えています。配分されているワクチンを個別接種、集団接種、それ

から特設会場において多くの市民の皆さんに打っていただくことが重要だ  
と思っていますが、(ワクチン供給量)でいうと、必ずしも楽観できるもの  
ではないと思っています。

- 事務局      試算によりますと、本市の市民の方、7割の方がワクチンを接種する  
という前提におきますと、8月(の最終週)までにその約50%の接種を終  
えるという試算になっています。
- 埼玉新聞      それは、予約枠を目いっぱい使って7割の5割という意味ですか。
- 事務局      はい、そのとおりです。
- 埼玉新聞      あと、市長は7月31日に2回目を打たれたと。その後の副反応とかは  
ございましたか。
- 市 長      副反応は、1回目よりは少し緩やかだったと思いますが、やはり少し発  
熱をしました。前回のときは37度6分まで行きましたけれども、今回は  
37度4分ぐらい。ちょっと腕に筋肉痛がありましたが、月曜日には朝か  
ら回復していましたので、私の場合は翌日、しかも24時間ぐらいたつ前  
後ぐらいが一番重かったかなという感じがします。
- 埼玉新聞      最近市の職員の方の感染者数が多いのですけれども、現在の数字と、そ  
れによって影響に伴って自宅に待機された方の人数とか窓口の影響とかを  
教えてください。
- 市 長      ご質問は、これまでにということでもいいですか。最近のところというこ  
とですか。
- 埼玉新聞      できれば月別を後で教えていただければ。
- 市 長      では、月別で後で数字でお示しさせていただきたいと思います。(会見後  
資料提供：8月3日時点で合計135人、月別の職員の感染状況に関する  
資料を提供)。
- 埼玉新聞      感染が多くなっている状況で、改めて職員、皆さんそうですけれども、  
どういうふうに対応されて、テレワークが進んでいないというのも影響が  
あるのかなと思うのですけれども、その辺はいかがですか。
- 市 長      市としては、引き続き職員に対しては、感染防止対策の徹底と、あとテ  
レワークについても、職員同士の接触する割合を接触率として数値化して、  
50%という目標を定めています。現時点での接触率は、6月は71.3%、  
7月が68.8%と減少傾向ですが、それでも市中に広がっているのと同

様に、さいたま市役所内でも感染拡大が続いているという状況です。引き続き、接触率を低減して50%を目指しており、まだかなり開きがあります。8月は夏季休暇などもありますので、さらに推進を図っていきたくと考えています。

○ NHK 議題について1点。NHKです。

大宮GCSの件なんですけれども、ウィズコロナ、ポストコロナ時代のまちづくりということで、新しい生活様式に対応した都市環境の提供というのは、市長としてはどういうものをイメージしていて、いろいろ考えていくのは難しさもあるのかなと思うのですが、そういった点を教えていただけますでしょうか。

○ 市長 おそらくウィズコロナ、アフターコロナという時代を想定しますと、これまでも段階的に進んできたデジタル化がより一層進んでくる時代を迎えることとなります。そういったものを想定をしていくことであったり、あるいは働き方やライフスタイルが、テレワークなどが推進されることによって、本社だとか会社にたくさんの人が集まって働いていくスタイルからもうちょっと緩やかな分散型になっていくのではないかという考え方もあります。現時点でそれぞれ有識者の皆さんが持たれている今後の将来の動向なども踏まえて、まちづくりはかなり長期間の中で行っていかねばなりませんので、先も見据えながらこのまちづくりの計画をつくっていきたくし、そのために重要な示唆をいただきたいという思いで推進会議を開催することとなります。

さいたま市は都市と自然が共生している都市ですので、そういったところはこれからポストコロナの時代でも非常に有力な武器になるのではないかと考えています。そういった視点なども含めて、様々な知見を有する専門家の皆様からいろいろご教示をいただきたいと思っています。

○ NHK ほかに議題に関する質問はありますか。

ないようでしたら、そのほかの質問がある方はお願いします。

### その他：浦和美園地区に建設予定の順天堂大学病院について

○ 朝日新聞 朝日新聞です。

ちょっとそのほかの議題で質問させてください。1つが浦和美園地区に

建設予定の順天堂大病院の件です。これは、3年ほど前に県と病院のほうで建設の調整をされたのですが、その後なかなか具体的な話が出てきていません。市のほうとしても4ヘクタールから5ヘクタールの市有地を用意したままで、今更地の状態が続いています。この状態について、市長は今日のようにお考えか、お話を聞かせてください。

○ 市長 さいたま市としては、県が出されている計画、すなわち順天堂大学を誘致して、そして美園地区に病院、あるいはその他関連施設をつくるということに賛同し、また協力をしているという立場です。基本的には、それらの計画がしっかりと前に進んでいくことを期待しています。何らかの事情でやや遅れているという印象は持っていますが、しっかりと前に進めていただきたいと、これは大学側にも県にも要望したいと思います。

○ 朝日新聞 さらに、市としては今、別の課題として、地下鉄7号線の延伸だったり、その中間駅のまちづくりというのを今進められています。この前、市長のほうは令和5年に事業申請もしていきたいというふうな発表もされました。これに病院がいつできるかって結構大きな関わりが出てくるかと思うんですが、これは今その地下鉄7号線の延伸とまちづくりには病院建設って影響してこないんでしょうか。

○ 市長 もちろん浦和美園駅を利用されるということでは、一定の影響はないわけではありませんが、ただそこから延伸をさせるというところの視点でいうと、その延伸するところのケースには実際には入ってきませんので、必要だし、重要ですけども、それ自体で大きな影響になることではありませんけれども、ただやはり多少は影響があります。

○ 朝日新聞 さいたま市の市民もあの地区に大きな病院ができるというのはかなり期待して待っていると思うんですが、なかなか計画が進まない。3年前の資料を見ると、大学側は病床を800床、28か29ぐらいの診療科を置いてつくりますよと発表したまま、なかなか表にその後具体的な話が出てきていません。あれだけ大きな市有地を用意されているわけですから、市としても例えば病床数を減らすとか、もうちょっとコンパクトな病院をつくるか、何らかの提案をしたらどうかと思うんですが、その辺は市として何か県とか大学側に働きかけはされていないのでしょうか。

○ 市長 その病床数云々というのは、大学と県とで話し合いをしながら決まってい

る計画ですので、それについて言うつもりはありません。ただもう一方でそれが動かないことによって、地域医療計画の中でも病床がずっと制限されたままで、病床自体がないけれども、別の病院が逆に言うと増やすことができないという状況もあります。その辺についてはしっかりその計画についても精査をしていただきながら、本来はその部分についてはできるだけさいたま市の地域医療の病床分としては除外していただいて、検討していただくようお願いしてきています。それらについては少し市全体のそれ以外の医療への影響もあるものですから、一日も早く精査をしていただいて、実現に向けたより具体的な計画を提示していただきたいと思っています。

○ NHK            そのほかご質問よろしいでしょうか。

どうもありがとうございました。以上をもちまして本日の記者からの質問を終了させていただきます。

○ 進 行            それでは、以上をもちまして市長定例記者会見を終了させていただきます。

なお、次回の開催は8月26日午後2時からを予定しています。本日はありがとうございました。

午後 2時40分閉会

※この議事録は、明らかな言い直し、重複した言葉遣い、話し言葉などを読み易く整理したものを掲載しています。なお、会見後追加・訂正・補足等された文言等については（ ）とし、下線を付しています。